第10回　北上川上流大規模氾濫減災協議会

資料－2

減災に係る取組方針の取組状況

令和7年6月27日

東北地方整備局　岩手河川国道事務所

各機関の取組状況等

・令和6年度の取組状況

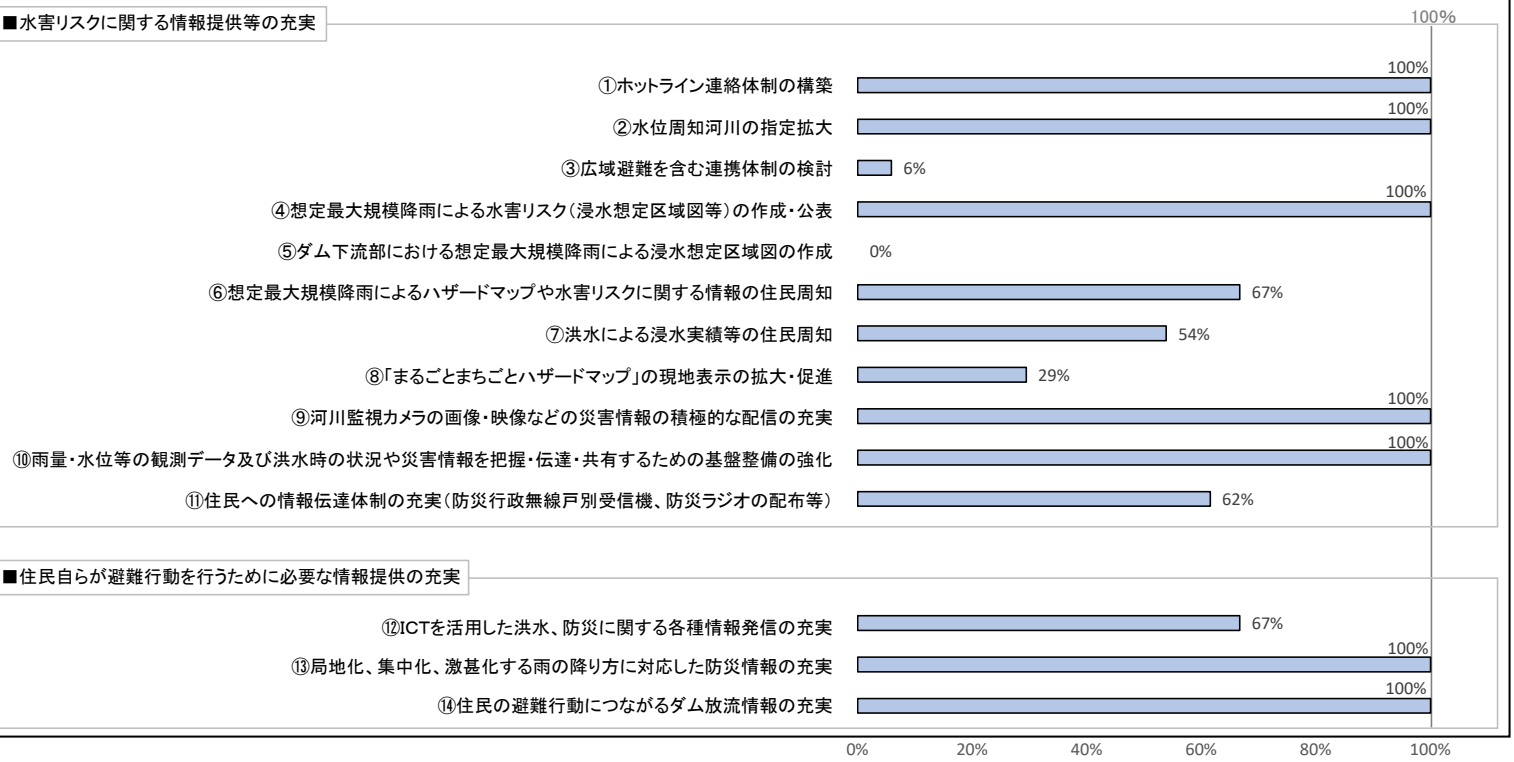
・令和7年度の取組予定

減災に係る取組方針の取組状況（令和6年度）

北上川上流
大規模氾濫減災協議会

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

■水害リスクに関する情報提供等の充実



■住民自らが避難行動を行うために必要な情報提供の充実

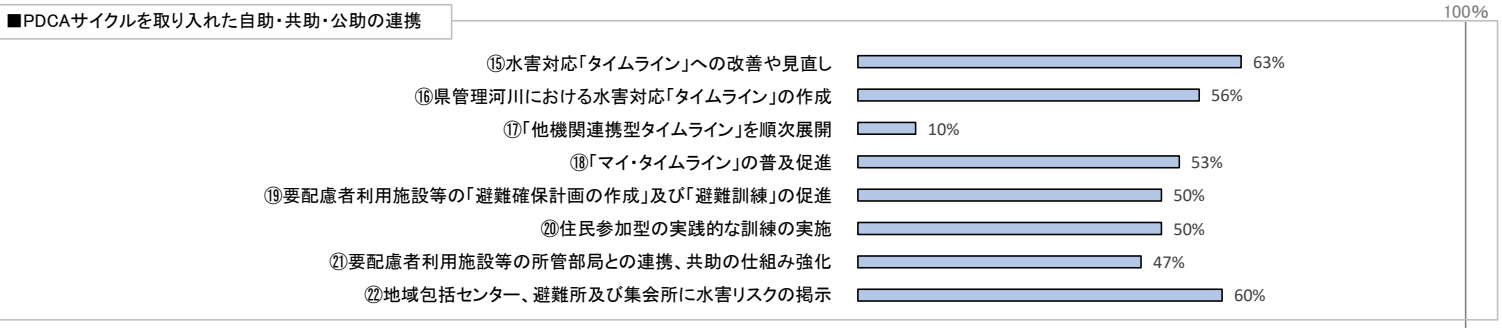
■ R6取組状況
［実績（◎実施）÷目標（◎実施+○検討・計画+－未定）］

減災に係る取組方針の取組状況（令和6年度）

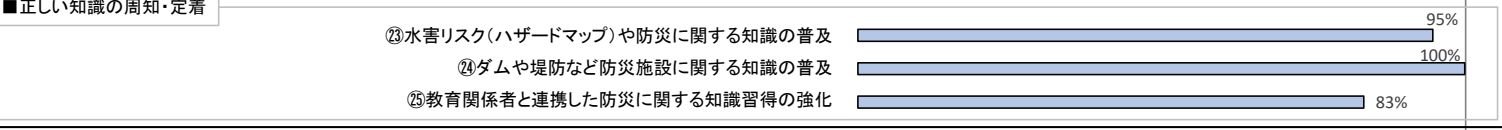
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

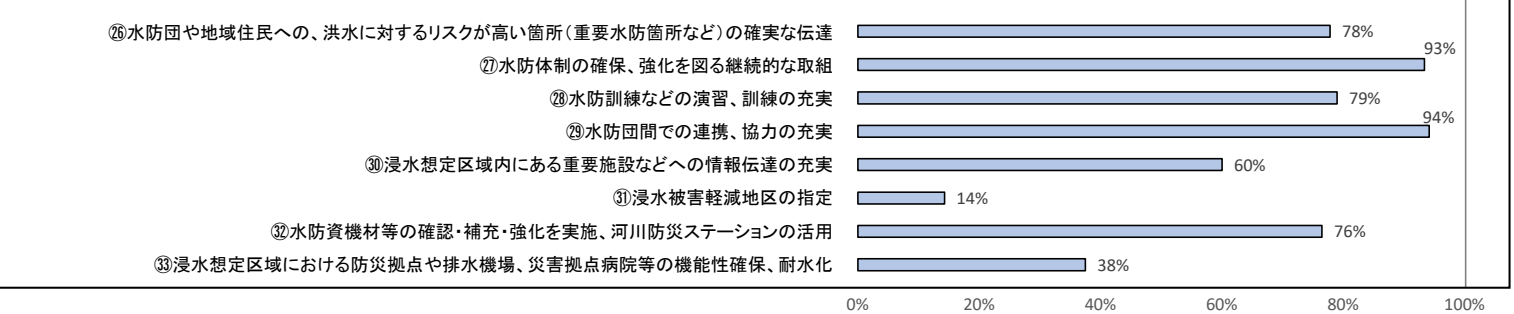
■PDCAサイクルを取り入れた自助・共助・公助の連携



■正しい知識の周知・定着



Ⅲ．人命と財産を守るための取組



■ R6取組状況
［実績（◎実施）÷目標（◎実施+○検討・計画+－未定）］

盛岡市

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○令和５年度に引き続き、出前講座、市広報を通して、地域住民に対して水害リスクや避難に関する情報のさらなる周知を図った。
○岩手県から新たに公表された県管理河川の洪水浸水想定区域を反映したハザードマップを作成し、住民等に対して周知を図った。



防災講座の様子



市広報による周知

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○総合防災訓練や出前講座、市広報を通して、地域住民に対して水害リスクや避難に関する情報のさらなる周知を図る。



市総合防災訓練
（参考）



市広報による周知

盛岡市

【Ｒ６年度取組状況】

○令和６年３月に岩手県から新たに公表された市内17河川の洪水浸水想定区域について、市民（特に周辺住民）等に対して、説明会等を実施し、洪水浸水想定区域や避難場所等について周知を図った。

○出前講座等を通じて、市民の防災・減災への意識醸成を図った。

○令和６年８月27日大雨災害を受け、対応の中で生じた課題を検証し、災害対策本部の設置基準の見直しや指定避難所への分散備蓄の推進等、防災体制の見直し等を行った。
また、米内川の水位周知河川への指定について、岩手県に対して要望を行った。

【Ｒ７年度取組予定】

○市総合防災訓練や出前講座を通じて、市民の防災・減災への意識醸成を図る。

○令和６年８月27日大雨災害を受け、対応の中で生じた課題を検証し、市全体で体制の見直しを引き続き行う。

○災害時における住民の円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、平成30年に作成した盛岡市防災マップを更新する。

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）

花巻市

【Ｒ６年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

住民参加型の実践的な訓練の実施

○自主防災組織など住民参加型の市防災訓練の実施
○岩手県及び遠野市と連携した県総合防災訓練の実施
○自主防災組織や地域住民への出前講座の実施
○広報紙やホームページを活用した防災知識の普及



岩手県及び遠野市と連携した県総合防災訓練の実施



広報紙やホームページを活用した防災知識の普及

【Ｒ７年度取組内容】

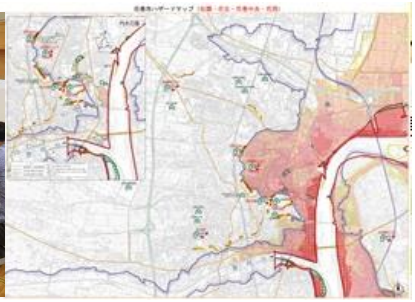
Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

住民参加型の実践的な訓練の実施

○自主防災組織など住民参加型の市防災訓練の実施
○北上川上流花巻地区合同水防演習の実施
○ハザードマップの更新、配布
○自主防災組織や地域住民への出前講座の実施
○広報紙やホームページを活用した防災知識の普及



自主防災組織など住民参加型の市防災訓練の実施



ハザードマップの更新、配布

北上川上流
大規模氾濫減災協議会

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）

花巻市

【Ｒ６年度取組状況】

○継続的な取り組みとして、自主防災組織など住民参加型の市防災訓練を6/30(日)に実施した。

○岩手県及び遠野市と連携した県総合防災訓練の実施、猿ケ石川の氾濫を想定した住民避難、傷病者等への対応、遺体収容所、避難所運営等の訓練を11/10(日)に実施し、広域訓練の実施意義に基づき岩手県、2市及び防災関係機関相互の連携と協力体制の強化を図った。

○職員や防災アドバイザーによる出前講座の開催、広報紙での特集ページの掲載など、水害リスクや防災に関する知識の普及に取り組んだ。

○継続的な取り組みとして、浸水想定区域内の要配慮者利用施設の内、未策定施設について避難確保計画策定支援の取り組みを進めた。

○指定緊急避難場所、指定避難所、ペット避難所及びマイ・タイムラインについて広報紙やホームページ等により周知を行った。

【Ｒ７年度取組予定】

○継続的な取り組みとして、自主防災組織など住民参加型の市防災訓練を6/29(日)実施する。

○北上川上流花巻地区合同水防演習を6/1(日)に実施する。

○令和7年2月に公表された県管理の27河川の浸水想定区域に対応したハザードマップに更新、全戸配布するとともに、市広報・HPなどにより広く市民に周知する。

○新しい地方経済・生活環境創生交付金（地域防災緊急整備型）を活用し、指定緊急避難場所等への災害用物資の備蓄を進める。

○職員や防災アドバイザーによる出前講座の開催、広報紙での特集ページの掲載など、水害リスクや防災に関する知識の普及に取り組む。

○浸水想定区域内の要配慮者利用施設の内、未策定施設について避難確保計画策定支援の取り組みを進める。

○指定緊急避難場所、指定避難所、ペット避難所及びマイ・タイムラインについて広報紙やホームページ等による周知を行う。

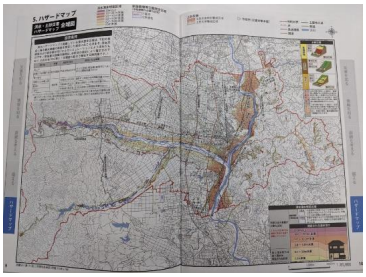
北上市

【Ｒ６年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○岩手県が指定・公表した、和賀川及び口内川の洪水浸水想定区域に係る住民説明会を開催し、地域住民への周知に取り組んだ。
○和賀川等の洪水浸水想定区域を反映した、新しいハザードマップを作成した。



ハザードマップの更新



住民説明会の開催
（洪水浸水想定区域等）

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○和賀川等の洪水浸水想定区域を反映した新しいハザードマップを全戸に配布するとともに、HP等により市民への周知を図る。
○新しいハザードマップの見方等の住民説明会を開催し、地域住民に対してさらなる周知を図る。



ハザードマップの全戸配布



住民説明会の開催
（新しいハザードマップの見方等）

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

北上市

【Ｒ６年度取組状況】

○新しい災害想定による和賀川及び口内川の洪水浸水想定区域の住民説明会を岩手県とともに開催し、沿川の地区の住民に周知した。

○和賀川及び口内川の新しい浸水想定区域に対応したハザードマップを作成した。（令和７年度公表）

○令和6年12月８日及び12月10日に「北上市自主防災マイスター養成講習［更新］」を実施し、66名が受講した。

○令和７年２月15日及び２月17日に「北上市自主防災マイスター養成講習［新規］」を実施し、新たに34名を認定した。

○令和７年１月31日に「北上市市自主防災組織研修会」を開催し、市内の取組事例の発表や雨季の対応状況に関する情報共有・意見交換、実技演習を行った。（参加者：81名）

【Ｒ７年度取組予定】

○新しいハザードマップを全戸に配布するとともに、市広報・HPなどにより広く市民に周知する。

○前年度中に完成したハザードマップに関する地域住民説明会を開催し、水害リスクや避難場所等について、地域住民に対してさらなる周知を図る。

○引き続き自主防災組織や自主防災マイスターを対象とする研修会等を開催し、地域の防災リーダーに対して、共助の視点を有した防災意識を醸成する。

遠野市

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及

○災害時の避難行動要領、自主防災組織の役割、避難所運営及び避難行動要支援者の対応等に関する研修会の実施をした。



【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及

○災害時の避難行動要領、自主防災組織の役割、避難所運営等に関する研修会の実施。



取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

遠野市

【Ｒ６年度取組状況】

○自主防災組織を対象に災害時の主な役割、避難行動要支援者支援者に対する行動等について町単位での地区別研修会を行った。

○令和６年度から「地区別研修会」を全地区で実施した後、自主防災組織ごとに実施地域を細分化し、地域の詳細なマップを使用したグループワークを主とする、「自主防災組織別研修会」を実施した。

○小学生に対しての防災学習を開催し、ハザードマップを使い、水害リスクや避難場所等について、指導を行った。

○出水期に備え、消防団による土嚢作成を実施した。

【Ｒ７年度取組予定】

○昨年度に引き続き、自主防災組織を対象に災害時の主な役割等について地区別研修会及び自主防別研修会を実施する。

○関係機関との情報連携を図り、地区センターをはじめとする地域の拠点を活かした防災体制を取れるよう調整する。

○浸水想定区域、土砂災害の恐れのある箇所が追加となったことからハザードマップを更新する。

○避難確保計画の作成支援及び避難訓練の実施を促進させ、対象施設の防災意識の醸成を図る。

○令和７年度北上川上流花巻地区合同水防演習で水防工法を実施し、水防技術の向上を図る。

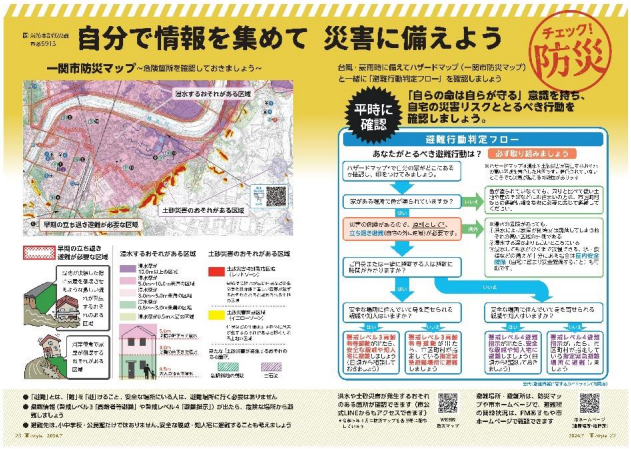
一関市

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

想定最大規模降雨によるハザードマップや水害リスクに関する情報の住民周知

○消防・防災セミナーで市防災マップを活用し水害リスクに関する情報を周知した。
○市広報紙で、水害リスクの把握方法や避難行動について周知した。



市広報による周知

【Ｒ７年度取組内容】

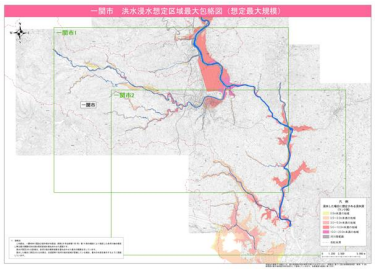
Ⅰ．安全な避難行動のための取組

想定最大規模降雨によるハザードマップや水害リスクに関する情報の住民周知

○消防・防災セミナー、市広報紙などを活用し、地域住民に対して水害リスクや避難に関する情報のさらなる周知を図る。
○新たに指定された洪水浸水想定区域について、さらなる周知を図る。



セミナーの開催



洪水浸水想定区域図

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

一関市

【Ｒ６年度取組状況】

○消防・防災セミナーにおいて、防災マップを活用し、洪水浸水想定区域などの水害リスクや避難場所等の周知を図った。

○市広報紙で、防災マップを使用した水害リスクの確認方法や平時に確認すべき避難行動について周知した。

○令和７年２月に市内29河川について、洪水浸水想定区域の指定がなされ、これについて市広報紙や市ホームページで周知した。

○要配慮者利用施設について、避難確保計画の作成について支援し、策定率の向上に努めた。

【Ｒ７年度取組予定】

○令和６年度に指定された洪水浸水想定区域についてさらなる周知を図る。また、洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設を抽出し、洪水時の円滑かつ迅速な避難ができるよう、早期段階で施設へ周知すると共に、避難確保計画の作成について支援する。

○昨年度同様に、消防・防災セミナーで防災マップを活用し、洪水浸水想定区域などの水害リスクや避難場所等の周知を図る。また、広報誌やSNSを用いて広く周知する。

○要配慮者利用施設について、避難確保計画の作成について支援すると共に、避難訓練の実施の促進及び実施に係る支援についても継続して行う。

八幡平市

【Ｒ６年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

住民参加型の実践的な訓練の実施

○地域の自主防災組織が主体となり、避難所運営ゲームを実施し、避難所を開設した際の様々な「気づき」について体験した。
○防災講話を実施し、地域住民の防災意識の向上を図った。



防災講話実施状況



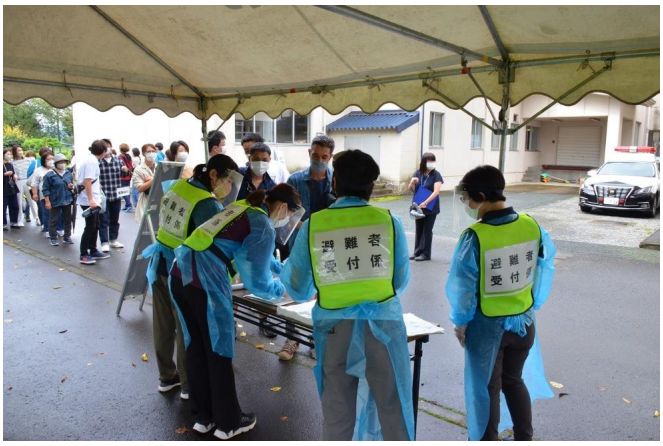
避難所図上演習

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

住民参加型の実践的な訓練の実施

○市総合防災訓練を通じて、地域住民が参加する実践的な避難訓練を実施する。



住民参加の避難訓練

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

八幡平市

【Ｒ６年度取組状況】

○防災士養成研修を受講し、自主防災組織リーダー１名の育成を図った。

○自主防災組織が組織化されていない地域において、組織化の働きかけを行った。（７団体、計８回）

○防災出前講座を実施し、地域住民等の防災意識の向上を図った。（参加者：延べ165名、計６回）

【Ｒ７年度取組予定】

○防災士養成研修に３名受講させ、自主防災組織リーダー育成を図る。

○自主防災組織が組織化されていない地域において説明会を開催し、組織の結成と地域防災力の向上を図る。

○市総合防災訓練を通じ、防災関係機関と地域住民が一体となって組織的かつ効率的な諸活動が迅速かつ的確に遂行できるよう実践的な訓練を行うとともに、併せて地域住民の防災意識の高揚を図る。

○前年度に引き続き、防災出前講座を実施し、地域住民の防災意識の高揚を図る。

奥州市

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及

○避難情報や台風・豪雨時の避難についての説明を主とした防災企画展を開催し、市民の防災意識の向上を図った。
○出前講座等により地域住民に対して水害リスクや避難に関する情報の周知を図った。



防災企画展の開催

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○新たに追加された河川の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域を反映させたハザードマップを作成し、全戸配布する。
　また、ハザードマップを基に自主防災組織や各自治会単位による学習会等を開催し、防災知識を深める。



学習会等の開催

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

奥州市

【Ｒ６年度取組状況】

○自主防災組織、自治会等が開催した防災講座へ市職員、奥州市防災士会「絆」から防災士を派遣し、地域の防災力向上を図った。

○自主防災組織や、民生委員、要配慮者利用施設等に緊急告知ラジオを配布し、地域への情報伝達体制を充実させ、住民へのいち早い情報周知と避難行動を支援した。

○ＩＣＴによる情報伝達として市民生活総合支援アプリ「ぽちっと奥州」によるプッシュ型避難情報発信を構築し、情報伝達体制の充実を図った。

○防災士の育成と防災フェアの開催地域の防災リーダーとして日ごろから防災・減災の取り組みの推進や指導、有事の際には避難所の運営等に携わる防災士の育成と奥州市防災士会「絆」と連携した防災フェアを開催しての防災・減災に関する啓発活動を実施した。

○防災パネル展を各地域で開催し、市民の防災意識の向上を図った。

【Ｒ７年度取組予定】

○新たに追加された河川の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域を反映させたハザードマップを作成し全戸配布する。

○防災講座等を開催し、水害リスクや避難場所等について、地域住民に対してさらなる周知とともに、地域における防災リーダーの育成を図る。

○地域防災力向上を図るため、防災士の養成に取り組む。

○自主防災組織、社会福祉協議会等と共同し、避難行動要支援者に対する個別計画の作成を推進する。

○総合防災訓練の実施
市と自治会や自主防災組織が一体となって総合的かつ実践的な訓練を実施することで、相互の協力体制の確立及び地域住民の防災意識の高揚を図る。

○水防団（消防団）の確保
水防団(消防団)の確保対策の重点取組として、消防団協力事業所及び消防団応援の店の拡充と制度周知を図る。

滝沢市

【Ｒ６年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○滝沢市地域防災リーダー養成講座を開催し、防災知識を深められた。
○自主防災訓練等で、地域住民に対してさらなる周知を図ることができた。
○一般市民参加型の避難所体験会を開催し、実災害に近い状況を体験してもらうことで防災意識を高めることができた。



滝沢市地域防災リーダー養成講座の開催



避難所体験会の開催

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○滝沢市地域防災リーダー養成講座を開催し、防災知識を深める。
○自主防災訓練等で、地域住民に対してさらなる周知を図る。
○一般市民参加型の避難所体験会を開催し、実災害に近い状況を体験してもらうことで防災意識を高める。



滝沢市地域防災リーダー養成講座の開催



自主防災訓練の開催

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

滝沢市

【Ｒ６年度取組状況】

○令和6年12月5日から8日までに、「滝沢市地域防災リーダー養成講座」を実施し、新たに5名を認定した。

○1年を通して、各自治会で開催した「自主防災訓練」を支援し、自主防災組織の育成と地域防災力の向上を図ることができた（参加者：1,094名）

○自主防災組織や地域住民を対象として出前講座を6回実施した。防災マップを活用し、水害リスクや防災に関する知識を深めることができた。

○避難所体験会を開催し、地域住民の防災意識の向上を図ることができた（参加者30名）。

【Ｒ７年度取組予定】

○昨年度に引き続き、 地域において防災リーダーとして率先して活動していく人材の育成を目的として「滝沢市地域防災リーダー養成講座」を実施する。

○昨年度に引き続き、 各自治会の「自主防災訓練」を支援し、自主防災組織の育成と地域防災力の向上を図る。

○昨年度に引き続き、地域住民等から希望がある場合に、出前講座を実施し、防災マップなどを用いて水害リスクや避難場所等についてさらなる周知を図る。

○昨年度に引き続き、避難所体験会を開催し、地域住民のさらなる防災意識の向上を図る。

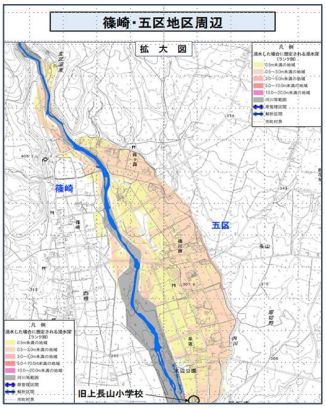
雫石町

【Ｒ６年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨によるハザードマップや水害リスクに関する情報の住民周知

○新たな洪水浸水想定区域が指定された河川の区域図を作成し、影響のある行政区に世帯配布を行い、周知を行った。
○自主防災組織の計画する防災講話などにおいて新たな洪水浸水想定区域やリスクについて周知を行った。



作成した世帯配布資料の例



自主防災組織等が計画する防災講話などにより、洪水浸水区域の周知を行った。

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

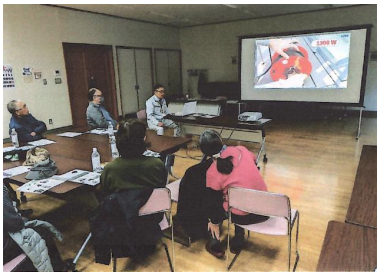
住民参加型の実践的な訓練の実施

○総合防災訓練において、水防機材訓練また、北上川上流盛岡地区合同水防訓練において、水防技術の向上を図る。

○自主防災組織による避難所開設、防災学習



水防訓練の実施



自主防災組織による防災学習会

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

雫石町

【Ｒ６年度取組状況】

○新たに雫石町内の5河川が洪水浸水想定区域の指定されたのに伴い、町ＨＰ、広報紙による周知並びに洪水浸水想定区域に影響のある世帯等に対し、ハザードマップを配布し、周知を行った。

○出前講座等において、新たな洪水浸水想定区域の説明・周知を行い、早期避難の重要性の認識の確認及び防災意識の高揚を図った。

○北上川上流盛岡地区合同水防訓練に、雫石町消防団が参加するのに伴い、水防技術の向上及び防災意識の高揚を図った。

○雫石町総合防災訓練への参加により、大雨に伴う土砂災害等からの避難所の開設訓練並びに各種訓練等を行い、防災意識の高揚及び地域防災力の向上を図った。

○県が実施した県自主防災組織防災リーダ研修会において、自主防災組織関係者１名が参加し、地域防災力の向上に努めた。

【Ｒ７年度取組予定】

○自主防災組織が計画する防災講座及び学校の防災学習等おいて、地域の水害リスク及び避難情報について周知を図り、防災意識の高揚を図る。

○令和７年度北上川上流盛岡地区合同水防訓練に、雫石町消防団が参加し、水防技術の向上及び防災意識の高揚を図る。

○雫石町総合防災訓練への参加により、大雨に伴う土砂災害等からの避難訓練及び避難所の開設訓練並びに各種訓練等を行い、防災意識の高揚及び地域防災力の向上を図る。

○県が実施する防災リーダー研修会に、自主防災組織等から希望者を参加し、防災士及び地域の防災リーダーの育成を図る。

岩手町

【Ｒ６年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及

○出前講座を開催し、地域住民に対してさらなる周知を図った。
○総合防災訓練で、自主防災組織や地域住民に防災知識の普及を図った。



出前講座の開催



総合防災訓練

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨によるハザードマップや水害リスクに関する情報の住民周知

○浸水想定区域、指定避難所等を掲載した防災マップの更新を図り、地域住民に対しさらなる周知を図る。
○北上川上流盛岡地区合同水防訓練に参加し、水防技術・知識の習得を図る。



防災マップの更新



水防訓練で水防技術を習得

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

岩手町

【Ｒ６年度取組状況】

○役場職員及び公民館職員等指定避難所運営職員による新型コロナウイルス感染症対策訓練の実施や体制を整備するとともに、災害発生時に対応できるよう、感染症対策を踏まえた避難行動等について避難所運営職員に周知を図った。

○自主防災組織や町から推薦した防災士研修会を受講し、防災士を育成すると共に防災士を中心とした防災マップを活用した出前講座等を開催し、地域住民同士で防災知識を深め、防災意識の高揚を図った。

○総合防災訓練の実施
　令和６年度は北山形地区で訓練を実施。防災関係機関と地域住民が一体となって総合的かつ実践的な訓練を実施することで，関係機関相互の協力体制の確立及び地域住民の防災意識の高揚を図った。

○北上川上流盛岡地区合同水防訓練に参加し、水防技術の錬磨、水防活動の連携の保持及び水防思想の一層の高揚を図った。

【Ｒ７年度取組予定】

○自主防災組織等に呼びかけ防災士研修会の受講を促し、防災士を育成すると共に、防災士を中心とした出前講座等を開催し、地域住民同士で防災知識を深め、防災意識の高揚を図る。

○総合防災訓練の実施
　水堀地区で訓練を実施。防災関係機関と地域住民が一体となって総合的かつ実践的な訓練を実施することで，関係機関相互の協力体制の確立及び地域住民の防災意識の高揚を図る。

○北上川上流盛岡地区合同水防訓練に参加し、水防技術の錬磨、水防活動の連携の保持及び水防思想の一層の高揚を図る。

○地域防災計画及び防災マップ等の更新を図る。

紫波町

【Ｒ６年度実施状況】

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○北上川上流盛岡地区合同水防訓練の実施会場として運営に携わったほか、訓練参加し水防体制の強化を図った。
○町内障がい者施設とネット中継して状況確認しながら連携して避難をするといった訓練を実施し、福祉関係者との連携強化及び要支援者の避難行動確認を図った。



水防訓練の実施・参加



障がい者施設合同避難訓練の実施

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○住民参加型の防災訓練を実施し、地域住民と防災関係機関が協力体制を築き、地域防災力の強化を図る。
○自主防災組織リーダー研修会を実施し、個別避難計画の普及推進を図る。



防災訓練の開催



自主防災組織リーダー研修会

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

紫波町

【Ｒ６年度取組状況】

○昨年度に引き続き、「紫波町防災訓練」を開催し、自主防災組織の育成と地域防災力の向上を図った。

○北上川上流盛岡地区合同水防訓練実行員会が主催する水防訓練について、水防団が運営に携わったほか、訓練参加することにより水防体制の強化を図った。

○昨年度に引き続き住民による地区での防災イベントを実施し、地域住民同士で防災知識を深め、防災意識の高揚を図った。

○障がい者施設、福祉関係団体と連携して避難訓練を実施し、避難行動要支援者の避難、支援方法等の確認、情報共有を図った。

○小中高の防災学習に出向き、防災教育を通じて災害発生時の対応や日常生活におけるリスク管理、備蓄品等の備えなど少年期からの防災に対する意識付けを図った。

【Ｒ７年度取組予定】

○昨年度に引き続き、「紫波町防災訓練」を開催し、自主防災組織の育成と地域防災力の向上を図る。

○昨年度に引き続き、北上川上流盛岡地区合同水防訓練実行員会が主催する水防訓練に参加し、水防体制の強化を図る。

○昨年度に引き続き、自主防災組織等による地区単位での防災イベントを実施し、地域住民同士で防災知識を深めるとともに防災意識の高揚を図る。

○障がい者施設や福祉関係団体と連携して避難訓練を実施するとともに個別避難計画の策定を推進する。

○防災教育を通じて防災への関心が持てるよう小中高の防災学習に出向く。

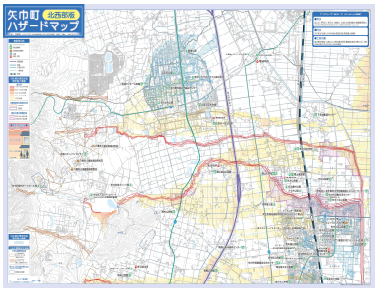
矢巾町

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○町内中小河川等の新たな浸水想定区域を反映した防災マップ（WEB版）の更新
○地区の自主防災会長、防災士を中心に防災研修等を開催し、地域住民に対して、周知した



ハザードマップの更新



防災研修

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

想定最大規模降雨に対応した水害リスクや避難に関する情報の住民周知

○自主防災組織及び防災士を対象とした育成講座を開催し、防災に係る知識の更なる習得を図る
○地区を対象とした防災学習会（出前講座等）を開催し町民の皆様へ普及を図る。



育成講座の開催



出前講座の開催

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

矢巾町

【Ｒ６年度取組状況】

○令和５年３月に国及び県から公表されている洪水浸水想定区域を反映した矢巾町防災マップ（WEB版）を更新した。

○地区を対象とした防災研修を開催し、町民の皆様へ普及を図る。

○令和6年９月26日、27日に、町防災士が新たに18名養成した。

○矢巾町総合防災訓練を通し、避難所の開設や、救命救護など町民を対象に周知、確認を行った。

【Ｒ７年度取組予定】

○自主防災組織及び防災士を対象とした育成講座を開催し、防災に係る知識の更なる習得を図る

○弾道ミサイルにおける住民避難、職員の初動体制を整備するとともに、災害発生時に対応できるよう住民に周知を図る。

○自主防災会長、防災士を中心に防災知識を深め、防災意識の高揚を図る。

○昨年度に引き続き、 町防災士を20名養成予定。

西和賀町

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

自主防災組織等の住民主体による「避難時の声掛け」や「避難誘導」を含む訓練の実施

効果的な役割分担や避難所運営、今後の連携強化を図るため、町と各自主防災組織が共同で防災訓練を実施。






訓練の様子

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

自主防災組織等の住民主体による「避難時の声掛け」や「避難誘導」を含む訓練の実施

効果的な役割分担や避難所運営、今後の連携強化を図るため、町と各自主防災組織が共同で防災訓練を実施。




防災訓練の開催

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

西和賀町

【Ｒ６年度取組状況】

〇防災マップの説明会を行った。

〇自主防災組織や要配慮者利用施設と連携した訓練を行った。

〇円滑な災害対応業務を行うため、人的応援の受入れに関する受援計画の策定を推進した。

〇防災アドバイザーによる講座を行い、担当職員の知識習得を図った。

【Ｒ７年度取組予定】

〇避難に関する知識習得や、防災マップの説明を目的とした出前講座を行う。

〇自主防災組織、要配慮者利用施設や地域企業と連携した訓練を行う。

〇防災アドバイザーによる講座を行い、担当職員の知識習得や各対応班毎の業務内容周知を図る。

〇緊急時の内部組織の確立を図るため、職員を対象に研修会を実施し、防災意識の向上や連携強化を図る。

〇防災マップの更新に向けた情報収集

〇要配慮者利用施設の避難計画作成支援

金ケ崎町

【Ｒ６年度実施状況】

⑫ICTを活用した洪水、防災に関する各種情報発信の充実

水害や避難に関する情報の住民周知に町独自アプリを作成

○気象情報や避難情報などをプッシュ通知するほか、町からの生活情報なども配信。
○リンク設定も行い、防災関係では、防災マップ、気象庁のキキクル、県土砂災害警戒情報システム、川の水位情報など実用的な情報を確認できる。



アプリ周知チラシ



【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

住民参加型の実践的な訓練の実施

○防災訓練を実施し、出水期の対応を確認する。
○自主防災組織内での災害時の声掛けや集団での避難訓練を実施するとともに避難所開設訓練などを実施し災害に備える。





避難所開設訓練





金ケ崎町防災士の会の協力による防災グッズの紹介

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

金ケ崎町

【Ｒ６年度取組状況】

○自主防災組織や児童を対象とした出前講座を開催し、地域内の危険個所などについて理解を深めた。

○町防災訓練を実施し、自主防災組織による地域住民の安全確認や実際に避難所へ避難訓練を行った。

○自主防災組織を対象にした自主防災組織リーダー研修会を５３名の参加のもと開催した。

○自主防災組織及び防災士を対象に防災セミナーを８９名の参加をえて２月に開催した。

○防災士の有資格者による組織立ち上げについて協議を続け、４月に２２名の有資格者による「金ケ崎町防災士の会」を設立した。地域の防災訓練では、新聞紙によるスリッパの作成や簡易食器の作成のワークショップや携帯トイレの使用方法などの説明を担い、避難所生活でのノウハウを参加した住民へ指導を行った。

【Ｒ７年度取組予定】

○町防災訓練について、出水期前の４月に住民参加の実施する。

○出前講座を積極的に実施し、防災意識の向上を図る。

○自主防災組織リーダー研修会、防災セミナーを開催し、自主防災組織の育成、地域防災力の向上を図る。

○昨年設立した「金ケ崎町防災士の会」と連携し、防災士が有するスキルを町民に還元できるよう各種訓練などに取り組む。

平泉町

【Ｒ６年度実施状況】

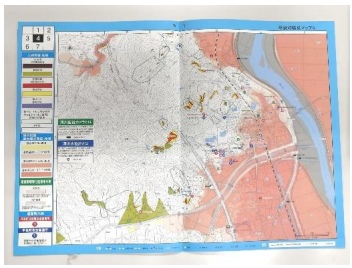
Ⅰ．安全な避難行動のための取組

想定最大規模降雨によるハザードマップや水害リスクに関する情報の住民周知

○水害リスクや防災に関する知識の普及を図るため、防災マップを更新しながら、防災気象情報や避難判断基準等のアップデートと、住民の水害リスク等に対する意識向上、安全な避難行動等の周知を図った。



ハザードマップの更新



土砂災害警戒区域等の追加

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及

○町内21自主防災会を中心に防災・減災を学ぶ研修会を開催しながら、地域住民の連携による避難行動の迅速化と地域防災力の強化を図る。



自主防災会を対象とした防災学習の実施

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

平泉町

【Ｒ６年度取組状況】

○新たな土砂災害警戒区域、河川洪水浸水想定区域などを反映した「防災マップ」を更新し、水害リスクや避難場所等について、地域住民へ周知しながら、安全確保と防災・減災への意識高揚を図った。

○昨年度に引き続き、「平泉町自主防災組織研修会」を開催し、自主防災組織の育成と地域防災力の向上を図った。

○地域住民への防災情報の確実な伝達を図るため、令和４年度に導入したデジタル防災無線戸別受信機の電波受信状況追跡調査とダイポールアンテナを追加設置した。

○岩手県の防災士養成事を活用し、防災士２名を養成。今後の地域防災を担う防災士を確保した。

【Ｒ７年度取組予定】

○昨年度更新した防災マップを活用し、地域住民への防災学習を実施しながら、水害リスクや避難場所等について、更なる周知を図る。

○「平泉町自主防災組織研修会」を開催しながら、地域防災リーダーの育成を図り、地域防災力の向上を図る。

○令和４年度導入のデジタル防災無線の個別受信機電波受信状況について、継続して電波受信状況の把握と、不感エリアへダイポールアンテナの設置を図る。

○防災士養成研修会への参加５名を目標に、地域防災のエキスパート人材の育成を更に図っていく。

東日本旅客鉄道株式会社　盛岡支社

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

■ホットライン連絡体制の構築
■ICTを活用した洪水、防災に関する各種情報の収集と運行状況の発信の充実

○ 報道機関を通じた情報発信のほか、自社HP上での運行計画を都度、前広に情報共有を継続して実施する。
○ 台風の時期前までに迅速かつ的確な防災情報の確認を行う。



Lアラートを活用した発表情報収集

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

■ホットライン連絡体制の構築
■ICTを活用した洪水、防災に関する各種情報の収集と運行状況の発信の充実

○ 引き続き各地区において総合防災訓練を実施するとともに、今年度は、災害時に通常の連絡手段が使用できない場合等も想定しながら、限られた通信手段を用い、現場地区統括箇所と支社対策本部とをリアルタイムで繋いだ訓練を実施することで、災害時の対応力強化を図っていく。



総合防災訓練

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

東日本旅客鉄道株式会社　盛岡支社

【Ｒ６年度取組状況】

○ 沿線自治体が作成するハザードマップやLアラート（財）マルチメディア振興センター）を活用し、事前の避難情報等の収集を進め、発災時における早期列車運行の発表に繋げていく。

○ 引き続き、台風・低気圧による河川増水・氾濫等に鑑み、沿線自治体が作成するハザードマップを活用し、浸水の影響が高い車両基地に留置する鉄道車両を予め回送させる取り組みを必要に応じ実施していく。

○ 引き続き、JR及びJRグループ会社による総合防災訓練をJR東日本盛岡支社の各地区で実施することとし、沿線自治体、消防、警察等の防災関係機関と連携した訓練のほか、各地区では、駅構内、列車、駅ビル等からの避難誘導訓練、多言語を含むお客さまへの情報提供訓練等を行い、対応強化を図っていく。

【Ｒ７年度取組予定】

○ 組織再編等、当社の組織体制や仕事の変化をチェックし、現状に合わない連絡体制等があれば、それに則した形に見直しを行い、災害対応における適切な体制を構築しいく。

○ 引き続き、台風・低気圧による河川増水・氾濫等に鑑み、気象情報、沿線自治体からの情報等を活用し、浸水の影響が高い車両基地に留置する鉄道車両を予め回送させる取り組み（車両疎開）を必要に応じ実施していく。

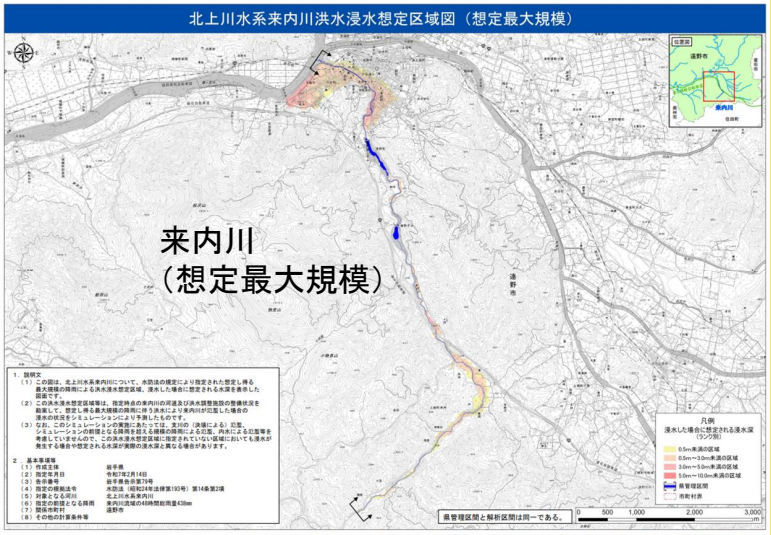
岩手県県土整備部

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

想定最大規模降雨による水害リスク（浸水想定区域図）の作成・公表

○洪水浸水想定区域指定４ヶ年計画に基づき、85河川（うち、当圏域は来内川等の83河川）を新規指定。



【Ｒ７年度取組内容】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

想定最大規模降雨による水害リスク（浸水想定区域図）の作成・公表

○洪水浸水想定区域指定４ヶ年計画に基づき、81河川（うち、当圏域は鈴鴨川等の５河川）を新規指定予定。

洪水浸水想定区域指定４ヶ年計画

	全体計画	うち北上川上流圏域
R4	7河川（新規指定） 23河川（見直し）	1河川（新規指定） 7河川（見直し）
R5	70河川（新規指定） 2河川（見直し）	53河川（新規指定） 2河川（見直し）
R6	85河川（新規指定） 4河川（見直し）	83河川（新規指定） 2河川（見直し）
R7	81河川（新規指定） 1河川（見直し）	5河川（新規指定）
合計	243河川（新規指定） 30河川（見直し）	142河川（新規指定） 11河川（見直し）

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

岩手県県土整備部

【Ｒ６年度取組状況】

○水位周知河川指定４ヶ年計画に基づき、２河川（うち、当圏域は滝名川）について、水位周知河川の指定を行った。

○洪水浸水想定区域指定４ヶ年計画に基づき、85河川（うち、当圏域は来内川等の83河川）について、洪水浸水想定区域の指定を行った。

○水位計設置４ヶ年計画に基づき、１河川（当圏域の和賀川）について、工事に着手。令和７年度内の完成を予定。

○岩手日報（新聞）及びエフエム岩手（ラジオ放送）にて、水防等に関する情報発信を行った。

○危機管理型水位計１基（当圏域の見前川）、通常型河川監視カメラ１基（当圏域はなし）、簡易型河川監視カメラ１基（当圏域の綱取ダム）の設置を行った。

○ライン及びXで河川の水位情報の発信を行った。

○ハザードマップ作成における防災・安全交付金の活用を支援した。

【Ｒ７年度取組予定】

○水位周知河川指定４ヶ年計画に基づき、４河川（うち、当圏域はなし）について、水位周知河川の指定を行う予定。

○水位周知河川指定４ヶ年計画に記載のない２河川（当圏域の米内川、黄海川）について、令和７年５月27日に水位周知河川の指定を行った。

○洪水浸水想定区域指定４ヶ年計画に基づき、81河川（うち、当圏域は鈴鴨川等の５河川）について、洪水浸水想定区域の新規指定を行う予定。

○近年設置した危機管理型水位計328基、監視カメラ157基の継続運用。

○ハザードマップ作成における防災・安全交付金の活用を支援する。

岩手県 復興防災部 防災課

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅲ．人命と財産を守るための取組

浸水想定区域内にある重要施設などへの情報伝達の充実

岩手県風水害対策支援チームの活動

・６月５日に、台風接近時の風水害対策支援チーム事務局の災害対応力の向上を図るため、風水害対策支援チーム運営訓練を実施。
・同月10日に連絡会議を開催、昨年度の連絡会議での意見交換結果や、運営訓練を踏まえた改善点を共有。
・８月は台風５号接近時に、また、９月には線状降水帯発生に備え、風水害対策支援チームを招集、市町村に対して助言を実施。
・平時の活動として、気象台等と連携し、14市町村において、防災気象情報の活用、災害情報システムの操作、災害への初動対応や図上訓練等に係る研修を実施。

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅲ．人命と財産を守るための取組

浸水想定区域内にある重要施設などへの情報伝達の充実

岩手県風水害対策支援チームの活動

・台風等接近時
　岩手県風水害対策支援チームを招集し、市町村に対する助言内容を検討し、必要な助言を行う。

・平時
　気象台等と連携し、12市町村において防災気象情報の活用、災害情報システムの操作、災害への初動対応や図上訓練等に係る研修を実施予定。

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

岩手県 復興防災部 防災課

【Ｒ６年度取組状況】

　風水害対策支援チームの活動を継続し、市町村への避難指示等発令を支援するとともに、市町村研修会への講師派遣などを行った。

　また、自主防災組織等に対する地域防災サポーターの派遣（令和６年度：63回派遣、4,134人研修等受講）を継続し、自主防災組織の活性化等を支援した。

　さらに、市町村と連携し、自主防災組織の中核となって活動できる人を対象とし、防災士の資格取得のための研修会（令和６年度：77人養成）を実施した。

【Ｒ７年度取組予定】

　風水害対策支援チームの活動を継続し、市町村への避難指示等発令を支援するとともに、市町村研修会への講師派遣などを行う。

　また、自主防災組織等に対する地域防災サポーターの派遣を継続し、自主防災組織の活性化等を支援する。

　さらに、市町村と連携し、自主防災組織の中核となって活動できる人を対象とし、防災士の資格取得のための研修会を実施する。

盛岡地方気象台

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

局地化、集中化、激甚化する雨の降り方に対応した防災情報の充実

平常時は「気象防災ワークショップ」等により地域防災支援業務を強化、緊急時は各種情報提供

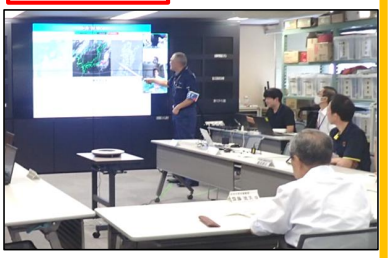
平常時



ワークショップ

・防災担当者向け「気象庁防災ワークショップ」により「防災気象情報に基づく防災対応の判断を疑似体験」
（R6.5　岩手県庁）

緊急時



情報提供

・岩手県風水害対策支援チームへの職員の派遣
（R6.8　台風第6号）

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

局地化、集中化、激甚化する雨の降り方に対応した防災情報の充実

平常時はR8出水期に向け「防災気象情報の体系整理」により地域防災支援業務を強化、緊急時は各種情報提供

平常時



防災気象情報の体系整理

・R8出水期以降を目途に各種防災気象情報を分かりやすく整理・変更
（情報等の改善イメージ）

緊急時



ホットライン・JETT

・荒天時、当台長より首長へホットライン
・被災自治体へ職員を派遣し解説や助言
（R6.8　盛岡市）

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

盛岡地方気象台

【Ｒ６年度取組状況】

⑬　局地化、集中化、激甚化する雨の降り方に対応した防災気象情報の充実
○注意報・警報基準の見直し
○「線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ」の地方単位から府県単位発表への改善

1　平常時は
○毎週金曜日「あなたの町の予報官ＴＶ」による解説
○市町村職員研修や各種勉強会での「防災気象情報の利活用」の説明、市町村の防災担当者や学校機関及び一般向けにワークショップによる普及啓発を実施
○防災訓練のシナリオ作成に協力
○自治体・関係機関の各種防災計画や避難マニュアル・タイムラインの作成に協力
○各種防災訓練への参加

2　緊急時は
○岩手県風水害対策支援チームに職員を派遣
○荒天時に台風説明会を実施
○市町村防災担当者へホットラインで気象解説
○JETT（気象庁防災対応支援チーム）の派遣
（葛巻町、盛岡市、岩手町）

【Ｒ７年度取組予定】

⑬　局地化、集中化、激甚化する雨の降り方に対応した防災気象情報の充実
○「防災気象情報の体系整理」シンプルで分かりやすい防災気象情報とするため、名称や発表カテゴリを整理R8出水期以降を目途

1　平常時は
○毎週金曜日「あなたの町の予報官ＴＶ」による解説
○市町村職員研修や各種勉強会での「防災気象情報の利活用」の説明を実施
○「防災気象情報の体系整理」の周知
○防災訓練のシナリオ作成に協力
○自治体・関係機関の各種防災計画や避難マニュアル・タイムラインの作成に協力
○各種防災訓練への参加

2　緊急時は
○Ｗｅｂによる台風説明会の実施、ホットラインなど利用者の立場に立った情報提供に努めます。
○大規模な災害時に、県（岩手県風水害対策支援チーム）や市町村へJETT（気象庁防災対応支援チーム）として気象庁職員を派遣し、現場のニーズや各機関の活動状況を踏まえたきめ細やかな気象解説を行います。

東北運輸局

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅲ．人命と財産を守るための取組

㉝ 浸水想定区域における防災拠点や排水機場、災害拠点病院等の機能性確保、耐水化

把握した施設の非常用電源・耐水化の確認及び対策の実施

〇鉄道事業者の鉄道施設が被災した際に、速やかに被害状況の把握に努め、早期復旧に向け連携した取り組みを推進した。
〇鉄道施設の災害復旧に係る事業間連携に関する連絡調整会議を開催した。





鉄道施設の災害復旧に係る連絡調整会議の模様

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

⑫ ICTを活用した洪水、防災に関する各種情報発信の充実

各構成員で洪水予報、水位情報、ダム放流情報、避難情報、運休計画等に関する各種情報を発信。

〇SNSを使用した効果的な情報発信について検討

（実施済みの類似例）



東北運輸局ホームページより

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

東北運輸局

【Ｒ６年度取組状況】

〇東北運輸局ホームページに「公共交通機関運行情報」として、各鉄道事業者の運行情報を確認できるように、各鉄道事業者ＨＰへのリンクを配置した。

〇気象庁から適時発表される気象情報等について、東北管内の各鉄道事業者あてメールにより情報提供し、注意喚起を行った。

〇東北管内の鉄道事業者で構成する鉄道保安連絡会議を開催し、気象情報の活用等、鉄道事業者の責務である安全運行に資する情報交換等を行った。

〇鉄道事業者の鉄道施設が被災した際に、速やかに被害状況の把握に努め、早期復旧に向け連携した取り組みを推進した。

〇鉄道施設の災害復旧に係る事業間連携に関する連絡調整会議を開催した。

【Ｒ７年度取組予定】

〇SNSを使用した効果的な情報発信を引き続き検討する。

〇気象庁から適時発表される気象情報等について、東北管内の各鉄道事業者あてメール等により情報提供し、注意喚起を行う。

〇鉄道事業者の鉄道施設が被災した際は、速やかに被害状況の把握に努め、早期復旧に向け連携して取り組みを推進する。

〇被災した鉄道施設への、鉄道災害調査隊に関する派遣要望の対応窓口等を行う。

〇鉄道施設の災害復旧に係る事業間連携に関する連絡調整会議を開催する（必要に応じて）。

北上川ダム統合管理事務所

【Ｒ６年度取組状況】

○SNS、HP、記者発表等を通じダム情報の発信を引き続き実施した。

○安全な避難行動のための取組として、AIを活用した洪水予測システムの試験運用を実施した。

○各地区の防災訓練への参画や出前講座など、地域防災力を強化するための取組を実施した。

○ダム見学者へのダム効果や機能の説明、水害リスクの説明を実施した。

○警報内容を地域住民の方に認識していただくとともに、スピーカからの音達範囲を確認するため警報訓練を実施した。（6月11日から27日）

○報道機関を対象としたダム操作・警報に関する説明会を実施した。

○予測降雨量や流入量が基準値に達した場合は、要領に従い事前放流の実施を検討する。（事前放流の実施無し）

○四十四田ダム嵩上げのため、調査・設計、環境調査等を実施した。（継続）

【Ｒ７年度取組予定】

○SNS、HP、記者発表等を通じダム情報の発信を引き続き実施する。【２／５参照】

○安全な避難行動のための取組として、AIを活用した洪水予測システムの精度向上に取組む。

○各地区の防災訓練への参画や出前講座など、地域防災力を強化するための取組を実施する。【３／５参照】

○ダム見学者へのダム効果や機能の説明、水害リスクの説明を実施する。

○警報内容を地域住民の方に認識していただくとともに、スピーカからの音達範囲を確認するため警報訓練を実施する。【４／５参照】

○報道機関を対象としたダム操作・警報に関する説明会を実施する。

○予測降雨量や流入量が基準値に達した場合は、要領に従い事前放流を実施する。【５／５参照】

○四十四田ダム嵩上げのため、調査・設計、環境調査等を実施する。（継続）【５／５参照】

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

北上川ダム統合管理事務所

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

ＩＣＴを活用した洪水、防災に関する各種情報発信の充実

○SNS、HP、記者発表等を通じダム情報の発信を実施。

リアルタイム情報の発信





ＳＮＳによる防災情報の発信　　ＨＰによるリアルタイム情報の発信

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

ＩＣＴを活用した洪水、防災に関する各種情報発信の充実

○SNS、HP、記者発表等を通じダム情報の発信を引き続き実施。

SNSを用いた情報発信



ＳＮＳ、ＨＰ等によるダム情報の発信

北上川ダム統合管理事務所

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

○各地区の防災訓練への参画や出前講座など、地域防災力を強化するための取組を引き続き実施。
○ダム見学者へのダム効果や機能の説明、水害リスクの説明を実施。



出前講座実施状況



ダム見学実施状況



ＳＮＳによる広報

国土交通省北上川ダム統合管理... フォローする
@mlit_kitakato

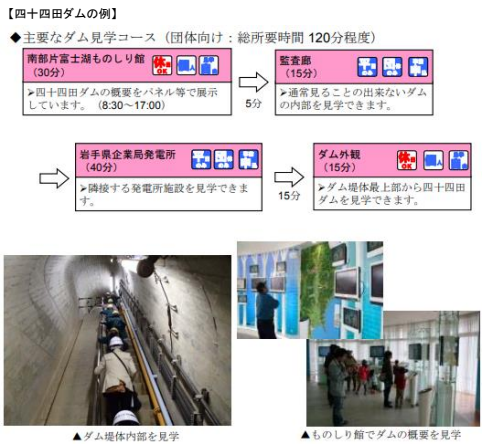
6/12（水）#胆沢ダム 見学に訪れたのは、奥州市立前沢小学校4年生のみなさんです。
展示室でダムの役割を勉強し、外ではダムの上から取水塔や発電所を見学しました。
たくさんの質問を投げかける児童、ダムの高さに驚く児童、#奥州湖 に向かって「ヤッホー」と叫ぶ児童の姿が見られました。

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

○各地区の防災訓練への参画や出前講座など、地域防災力を強化するための取組を引き続き実施。
○ダム見学者へのダム効果や機能の説明、水害リスクの説明を引き続き実施。





▲ダム堤体内部を見学

▲ものしり館でダムの概要を見学



ダム見学や出前講座、パネル展示などで効果等の説明

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

北上川ダム統合管理事務所

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅲ．人命と財産を守るための取組

水防演習などの演習、訓練の充実

○管内５ダムにおいて、緊急効果音を追加した緊急放流（異常洪水時防災操作）時の放流警報訓練を防災担当者及び地域の方々と実施。
○行政関係機関だけでなく、沿川の地区長や地域住民も参加いただき訓練を実施。



四十四田ダムの実施状況



ＳＮＳによる広報

国土交通省北上川ダム統合管理... フォローする
@mlit_kitakato

6月11日、12日の2日間 #湯田ダム 下流の和賀川で大規模洪水を想定した #ダム警報訓練を 行います。
北上市の防災担当職員や地域の方と一緒に #緊急放流 時に実際に鳴らす内容を放送して聞こえ方を確認します。
是非この機会に放送内容をご確認ください。

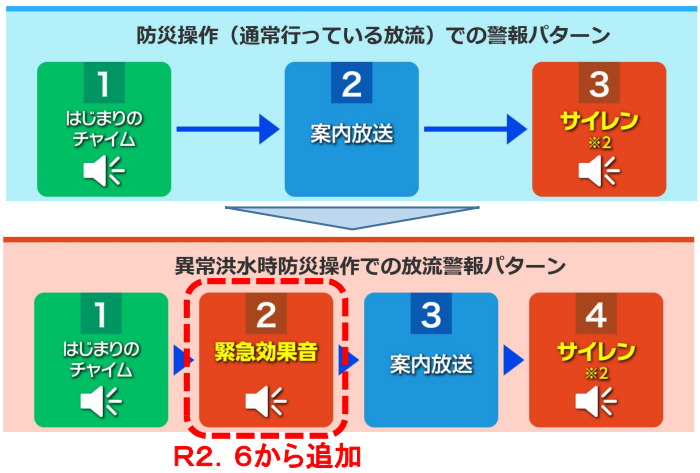
【Ｒ７年度取組内容】

Ⅲ．人命と財産を守るための取組

水防演習などの演習、訓練の充実

○管内５ダムにおいて、緊急放流（異常洪水時防災操作）時の放流警報訓練を防災担当者及び地域の方々と実施。

○行政関係機関だけでなく、沿川の地区長や地域住民も参加いただき訓練を実施。



北上川ダム統合管理事務所

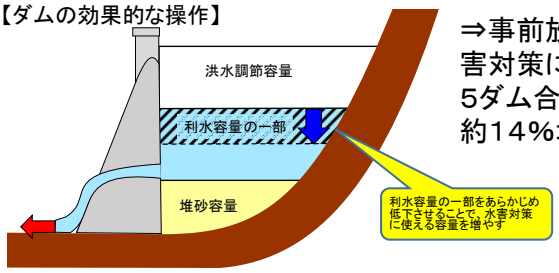
【Ｒ６年度実施状況】

Ⅲ．人命と財産を守るための取組

ダムの効果的な操作（柔軟な運用）
ダム再生

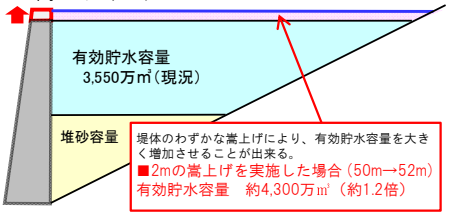
〇予測降雨量や流入量が基準値に達した場合は、要領に従い事前放流を実施。（R6は事前放流の実施無し）
〇四十四田ダム嵩上げのため、調査・設計、環境調査等を実施。

【ダムの効果的な操作】



⇒事前放流により、水害対策に使える容量が5ダム合計で最大約14%増加。

【ダム再生】
■ 嵩上げ（四十四田ダム）



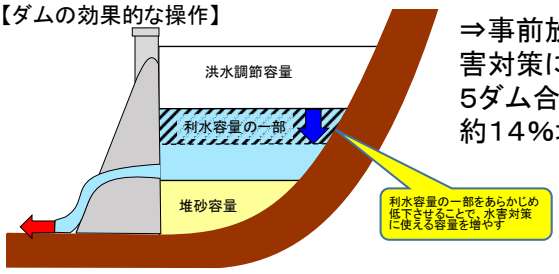
【Ｒ７年度取組内容】

Ⅲ．人命と財産を守るための取組

ダムの効果的な操作（柔軟な運用）
ダム再生

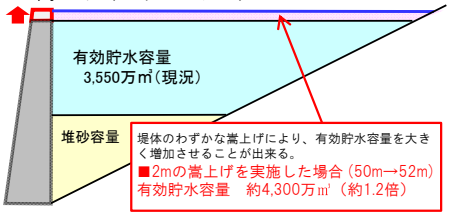
〇予測降雨量や流入量が基準値に達した場合は、要領に従い事前放流を実施する。
〇四十四田ダム嵩上げのため、調査・設計、環境調査等を継続実施。

【ダムの効果的な操作】



⇒事前放流により、水害対策に使える容量が5ダム合計で最大約14%増加。

【ダム再生】
■ 嵩上げ（四十四田ダム）



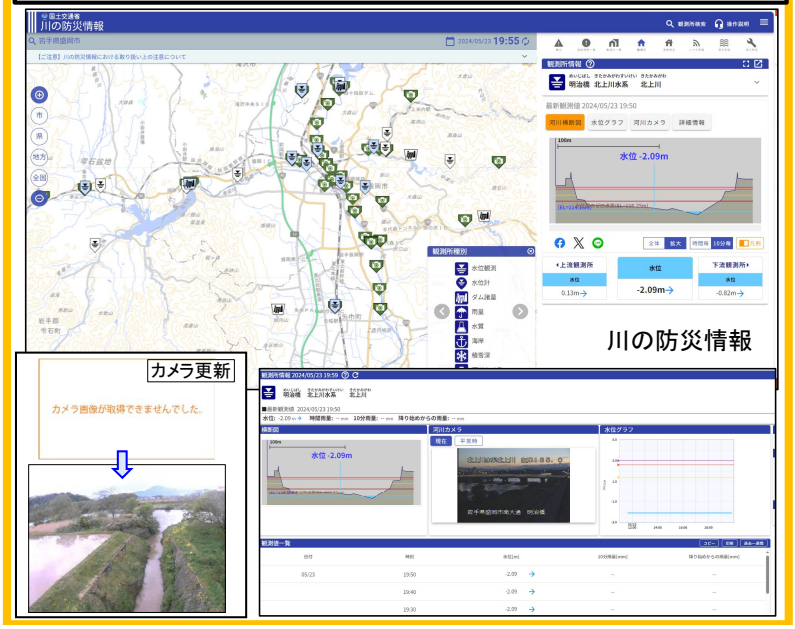
岩手河川国道事務所

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

河川監視カメラの画像･映像など災害情報の積極的な配信の充実

○事務所ホームページ及び「川の防災情報」で画像情報を配信、簡易型河川監視カメラを9箇所更新済み。



【Ｒ７年度取組内容】

Ⅰ．安全な避難行動のための取組

河川監視カメラの画像･映像など災害情報の積極的な配信の充実

○事務所ホームページ及び「川の防災情報」で画像情報及び水位・雨量情報の配信継続及び機器の維持管理。



事務所HPの提供状況

取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

岩手河川国道事務所

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及、ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

○自治会や学校、地域住民を対象とした出前講座にて、水害リスクやダム・堤防等の防災施設に関する知識の普及活動を実施した。

学校や地域住民への出前講座







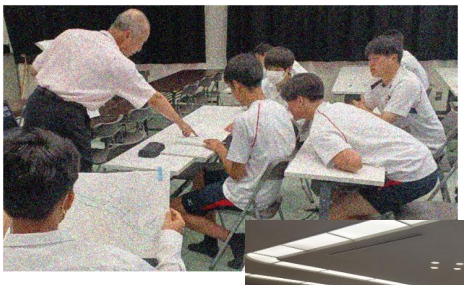
水害写真のパネル展示

【Ｒ７年度取組内容】

Ⅱ．地域防災力を維持・継続・強化するための取組

水害リスク（ハザードマップ）や防災に関する知識の普及、ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

○自治会や学校など地域住民を対象とした、水害リスクやダムや堤防等の防災施設に関する知識、マイタイムラインや防災情報の入手等に関する普及活動を実施する(出前講座など)。



水害リスク情報（ハザードマップ）の周知・普及



岩手河川国道事務所

【Ｒ６年度実施状況】

Ⅲ．人命と財産を守る水防活動及び排水活動の取組

水防団や地域住民への、洪水に対するリスクが高い箇所（重要水防箇所など）の確実な伝達

○水防活動関係者と重要水防箇所合同巡視を行い、危険箇所の情報共有を行った。





【Ｒ７年度取組内容】

Ⅲ．人命と財産を守る水防活動及び排水活動の取組

水防団や地域住民への、洪水に対するリスクが高い箇所（重要水防箇所など）の確実な伝達

○水防活動関係者と重要水防箇所合同巡視を行い、危険箇所の情報共有を行う。





取組方針フォローアップ（各機関の取組状況等）
北上川上流
大規模氾濫減災協議会

岩手河川国道事務所

【Ｒ６年度取組状況】

○水害リスクに関する知識の普及、ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

自治会や学校など地域住民を対象とした出前講座にて、水害リスクやダム・堤防等の防災施設、マイ・タイムラインや防災情報の入手に関する知識の普及活動を実施した。

○河川監視カメラの画像・映像などの災害情報の積極的な配信の充実

事務所ホームページ及び「川の防災情報」で画像情報の配信を継続している。あわせて水位・雨量情報も配信し、一般の方が情報を入手することができるようになっている。

○重要水防箇所合同巡視

洪水時におけるリスクが高い箇所の確実な伝達を目的に水防団等との重要水防箇所合同巡視を実施した。

○水害対応「タイムライン」の改善や見直し

災害対策基本法の改正等を踏まえたタイムライン見直しの必要性について、大規模氾濫減災協議会幹事会、洪水予報・水防連絡会にて情報提供を行った。

【Ｒ７年度取組予定】

○水害リスクに関する知識の普及、ダムや堤防など防災施設に関する知識の普及

自治会や学校など地域住民を対象とした、水害リスクやダム・堤防等の防災施設、マイ・タイムラインや防災情報の入手に関する知識の普及活動を実施する(出前講座など)。

○河川監視カメラの画像・映像などの災害情報の積極的な配信の充実

事務所ホームページ及び「川の防災情報」で画像情報の及び水位・雨量情報の配信継続及び機器の維持管理。

○重要水防箇所合同巡視

洪水時におけるリスクが高い箇所の確実な伝達を目的に水防団等との合同巡視を実施する。

○多機関連携型タイムラインを順次展開

河川・気象情報の提供やこれを受けた市区町村による避難情報の発令など、基本的な行動を時系列で整理した多機関連携型タイムライン（流域タイムライン等）を運用するとともに、活用による気づきを修正し改善を図っていく。